

4月5日加茂・石川公園



四月五日、新潟市中央区にある桜の開花宣言が発表された。平年に較べ六日、昨年とでは一日早い。満開は十日頃とのことである。

自宅から歩いて十五分ほどの石川公園では、同じ五日現在、写真のごとく桜のつぼみが赤紫色に大きく膨らみ、成長した先端が三つ乃至四つに割れ、そこがまさに桜色になっている。私の個人的な予想では、開花日は、二日後の四月七日とみた。果たしてこの個人予想は当たるだろうか見ものである。朝の散歩の楽しみがひとつ増えた。

ところで、新潟市で発表した公的な開花宣言は、定められた標本木の花が五、六輪ほど咲いた日を開花日として発表している。さらに、満開は八割以上のつぼみが開いた状態の時としているようだ。だから、開花も満開も同じ市内でありながら、標本木以外の場所によつてはかなりの差が出るのは当然である。去る二月十一日夕方の民放のテレビニュースで、新潟市中央区で桜が咲いていると報じた。アナウンサーの音声と画面の文字で、それが私の友人宅だということが分かった。数年前会った際、「我が家の桜は冬に咲く」と語っていたことを思い出した。一般的なソメイヨシノの品種とは異なっている

らしい。そういえば、河津桜という品種も早く咲く。どの世界も、ワセとオケテがあるのだろう。面白いものである。

毎年、春先になると、桜前線は……と多くのマスメディアがニュースとして伝える。雪国では、梅・桜・桃がオーバードラップしながら花をつける。だから、「花」だけをとらえたらかなり長期間にわたって楽しむことができる。しかし、梅は、特に関東以西では花見客は賑わうが、どの地方でも桃の花見はあまり聞いたことがない。

いずれにしても日本人は桜好きの人が多い。花は桜木、人は武士と、武家社会が長く続いた国柄もあるのだろう。その証拠に、よく言われるのが、散り際の鮮やかさを称える人が多いことだ。武士の死生観と照らし合わせたものだろうが、確かに咲いている期間は短い。よって、散る桜残る桜も散る桜で満開の桜を満喫するのは難しい。月にむら雲、花に風のごとく、桜の見頃時期に得てして風にさらされてしまうことと、さらに花は、人の都合に合わせるにはくれない。だからこそ、開花予測のニーズが生じたように思う。

この開花予測にあたって、休眠打破という耳慣れない言葉を聞いた。文字通り、休眠を打ち破り目覚めることだ。スギ花粉は、一月一日からの積算気温で花粉の飛散する時期を予測しているが、桜は冬期の一定期間寒さを耐え忍ぶと休眠から覚め、その後気温の上昇に連れてつぼみが膨らみ花が咲く。こうしたリズムを計算して開花時期を予測している。

冬眠する動物がいることは承知していたが、桜にも睡眠時期があることに驚いた。そして、暖かさだけでなく寒さが必要だということも。どおりで、沖縄地方より本州の桜が早く開くことがあったなと思ひ出した。寒さが必要

だと言うことは、常夏の国では桜は育たないということになる。私たちが桜を愛するのは、日本の四季に適合した花なればこそ、ともいえる。

休眠打破ということばは他の花や樹木にも当てはまるようだ。もしかすると人間社会にも通用するのかも知れない。ビジネス界では、休眠会社といって、営業をしていない会社が沢山ある。休眠もあまり長く続くと社会に悪影響をもたらす。植物と動物と種属は別であっても同じ生き物として、休眠打破という生命リズムの共通項があると思えば、世に言われている「共生社会」という言葉も身近に感じられるというものである。

追記 石川公園の桜は、私の予想通り四月七日開花した。